

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

□巻頭言… P1 / 「過去の災害を風化させてはいけない」～災害への備えと復旧に向けての教訓～

(株)イマイ自動車 今井社長インタビュー… P1・P2・P3

□第48回合同審議会の報告… P3 □2019年度自動車リサイクルに関する認知度調査結果… P4

□7月新車販売・使用済自動車発生台数 / 【速報】ヤフオクにおける中古エアバッグ類の出品禁止!… P5

□鉄スクラップ最新情報… P6 □行事予定・お知らせ / 編集後記… P7

vol. **138**

過去の災害を風化させてはいけない ～災害への備えと復旧に向けての教訓～

01

(株)イマイ自動車 今井社長インタビュー

激甚災害が増加している昨今、会員の皆様におかれては防災意識を高めていただきたく、東日本大震災で地震・津波の被害を経験された株式会社イマイ自動車・代表取締役 今井雄治氏にお話を伺いました。



■2011年3月11日東日本大震災当日

震災当日は、部品流通団体の総会で東京におりました。仙台空港が津波に流されるテレビ映像を見て、会社は浸水しているのだろうと安易に想像していましたが、現地の役員からのメールで「壊滅です」との報告を受けました。

■当日の初動

①従業員の安全確保

津波の心配もあったため、引取り担当のドライバーたちには、会社に戻らずに帰宅するよう指示し、会社にいた従業員たちは指定されていた中学校に全員集合させた後に解散するよう指示しました。幸いにして、社員が一人も亡くならなかったのは大きかったです。もし、一人でも行方不明になっていたら全員で捜索するつもりでしたし、復旧に向けた士気も上がらず、復旧どころでなかったと思います。家族が亡くなった従業員は何人かいました。その人たちには「会社に来なくていいから、家族の捜索活動をしろ」と言いました。

②事業再開のための支援物資の調達

当日手元にあったノートパソコンでパソコン・電話機の主装置・ハブ等、発注できるものは全て発注しました。もし、在庫がなくなってしまうと、注文順に納品を待たなくてはならず、いつ納品されるかの予定が立たなくなるからです。

巻頭言

今回のニュースレターは「過去の災害を風化させてはいけない」～災害への備えと復旧に向けての教訓ということで今井社長からお話を伺いました。

私は愛知県に住んでいますが南海トラフ地震が何時来てもおかしくない状況にあります。いざという時にどう行動、対処するかが中々イメージ出来ずにいました。今回お話を直接聞くことで震災時の状況を自分事に置き換え、想像することで「想定」が出来ました。これは災害に対する最大の備えとなります。とても貴重な時間でした。同時に当たり前過ぎていく日常にも感謝して過ごしたいと思いました。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: <http://www.elv.or.jp/>

過去の災害を風化させてはいけない」 －災害への備えと復旧に向けての教訓－

01

東京から仙台へ戻る際には、埼玉県の実業家仲間からダイナ・キャラバン・サクシード・フリードの4台を借り受け、現地で不足していると報告が入った物資（水・食料・おむつ等々）を買えるだけ買い、荷台を満載にして、13日の朝に仙台に戻ることが出来ました。

■2011年3月16日震災後4日目「事業再開に向け社員と共に始動」

水が引いた16日から復旧作業に取り掛かり、毎日来る日も来る日も社員全員で、電気・水・食料・燃料が無い状態の中で片付け・清掃作業を続け、1ヶ月後の4月11日から車の解体作業を始められました。

しかし、インフラの復旧が遅れていて、電気が使用できたのがGW明け、水道はお盆明けとなり、その間は仮設発電機や給水を繰返し行いしのぎました。

本社業務は、被害が比較的少なかった別の営業所で行ないました。火災対策で予備サーバーを営業所に置いていたのが幸いし、パソコンデータは、バックアップされていて被害はありませんでした。

■同業者の仲間からの助け合い支援に感謝

比較的短い期間で復旧できたのは、同業者の仲間や顧客からの御支援の賜物です。

同業者仲間から、無償で長期に渡り重機をお借りすることができたこと。また、大量の燃料を持ってきてくれた仲間や他の部品流通団体業者様からもたくさんの支援や励ましの言葉をいただきました。

震災被害で大変だった時期に、近所の他業種卸業者の話では、被害の少なかったライバル会社から「納品できないなら、うちがやりますよ。」と顧客を奪われたとのこと。多くの同業者仲間がボランティアとして、車の回収や移動を手伝うというのは、他の業界ではありえないことだと思います。

「あいつのところ、沈んでざまみろ」ではなく、「あいつのところ大変だぞ、なんとかしなければ」と思ってもらえたのは、同業他社を「ライバル・敵対視していたか」「仲間として見ていたか」の経営姿勢の違いであり、これからも「助けたい」と思ってもらえる経営をしていきたいし、確実に次の世代につなげていきたいと思っています。

助けてくれた人たちには、今は困っていないので恩返しはしなくても、次に困った人がいたら必ず助ける姿勢を持つ「恩送り」でもっといい世の中にしていきたいです。

■震災を通して気付いたこと

今も言い続けているのは、「先人たちの努力に感謝」です。電気がつく、蛇口をひねると水がでるという当たり前のありがたさは、それが無くなると気付けない。

そこに気づくと、日頃の文句がいかにくだらな事かと感じられるのではないのでしょうか。真っ暗で水もでないところで同じ文句が言えるかということですね。

「復旧する」とは、「元に戻す」作業であり、何がどこにあったかは従業員の方が詳しく、従業員の皆さんとイメージを共有化することができ、「復旧作業」は苦しかったけど、振り返ると思った以上には楽でした。



□3月15日：会社の前の道路
(コンテナの奥が会社)



□3月16日：会社の正門



□3月16日：工場内



□4月7日：工場内の写真

【復旧時のエピソード 1：何が優先？】

従業員から「会社の復旧作業」「顧客の車の引上げ」「地域の車の引き上げ」のどれを優先したら良いかと聞かれたことがあります。私は「優先順位は無い。全部優先だ。」と答えました。

【復旧時のエピソード 2：やれることをやる、できないことはできない。】

社員も「ですよ」と納得してくれました。ガレキの山を見て誰もが愕然とし、1日作業したくらいでは全然片付かないし、終わりが全く見えない。でも、少しずつでも進めば、いつかは絶対片付きます。従業員たちも、周りからの支援によって自分たちが支えられていることを実感でき「俺たちが動かないわけにはいかない」「頑張らないわけにはいかない」「止まっているわけにはいかない」という気持ちになってくれました。

■コロナ禍の対応について

首尾よく入手できたマスクを箱毎、普段取引のある業者へ無償で配布いたしました。何かお困りごとがあれば、お助けして、恩を送ってあげる。

それがビジネスチャンスチャンスにもつながるでは！

第 48 回合同審議会の報告

02

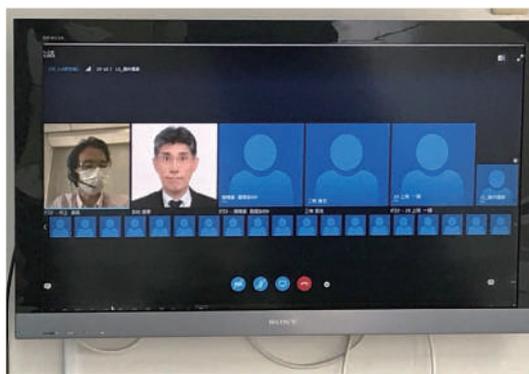
第 48 回産業構造審議会、中央環境審議会合同会議（産業構造審議会産業技術環境文科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG、中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会）が 8 月 19 日（水）リモート会議で開催されました。

はじめに、産業構造審議会座長の村上進亮様より、自動車リサイクル法については、「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」（平成 27 年 9 月 産業構造審議会・中央環境審議会合同会議）において、「今回の検討から 5 年以内を目途に、改めて制度の在り方について検討を行うことが適当」とされていることから、自動車リサイクル法の施行状況や課題、今後のスケジュール及び検討の観点（案）にて検討を進めるとの説明がありました。また新たに中央環境審議会座長に就任された酒井伸一様より挨拶がありました。

事務局（経済産業省、環境省）より、合同会議のアジェンダに沿って①自動車リサイクル制度の現状として、自動車リサイクルを取り巻く環境、制度の状況、自動車リサイクル関連取組の状況、②自動車リサイクルの最近の状況については、「新型コロナウイルス感染下の動向」、③自動車リサイクル制度の「あるべき姿」の実現に向けた具体的取組とフォローアップ状況などの報告と説明後に、今後のヒアリングの進め方、検討の観点について説明がありました。

その後、各委員からの質疑を受けられ、機構の酒井代表からは、これまで適正処理の推進やリサイクルの高度化など業界及び個々の事業者が健全に発展できることを信じて活動に取り組んできた。15 年目の検討にあたり、JARS の大規模改修タイミングを逃すことなく聖域なしに検討すべきではないかと考えており、現状「なぜヤードと呼ばれる施設が激増しているのか」「輸出される車両は、車齢 14 年以上の古い車両が占める割合が年々増加している」など、どちらも国内でリサイクルを業とする者にとっては死活問題との声が多数ある。次世代技術や新素材などへの対応が今後求められておりますので、業界全体がギリ貧にならないよう努力してまいりたいと意見を述べられました。

本日の合同会議で自動車リサイクル制度の「あるべき姿」の実現に向けてキックオフが行われ、今後義務者・関連事業者等へのヒアリング（9 月以降）、論点整理、方向性についての検討／報告書とりまとめ（10 月以降）が実施されます。



2019年度自動車ユーザーへのアンケート調査結果

本調査は、公益財団法人自動車リサイクル促進センターが取り組む自動車ユーザーに対する理解活動の振返りを行い、更に自動車ユーザーに質の高い情報を提供していくための基礎情報を得ること、その調査の結果を踏まえて、自動車リサイクルの関係者間の連携強化を図り、自動車ユーザーに対する説明責任を感化することを目的として毎年実施されております。

【調査対象】 過去3ヶ月以内に、自動車を購入した全国18歳以上の男女

【調査方法】

調査会社のパネルから無作為に抽出し、インターネット調査方式にて2020年5月14日(水)から18日(月)にかけて実施されたものです。

【回答者の属性】

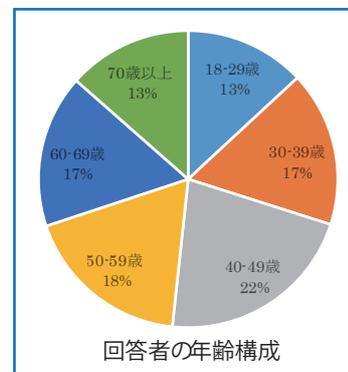
回答者は合計1,710件であり、その属性は以下のとおりである。

(1)年齢構成は、回答者の13%が20代以下であり、17%が30代、22%が40代、18%が50代、17%が60代、13%が70代以上であった。

(2)男女構成は、回答者の54%が男性であり、46%が女性であった。

(3)回答者が購入した自動車の区分は、回答者の66%が新車を購入し、34%が中古車を購入している。

(4)自動車を購入した販売店等の区分は、回答者の70%がメーカー系列の自動車ディーラーで購入し、2%が外国車の輸入代理店、15%が中古車の販売店、5%が整備工場、6%が友人・知人等から購入している



【調査の内容】

(1)自動車ユーザーの自動車リサイクルについての認知状況

1:自動車リサイクル制度について「どんな仕組みか概要を知っている」と24%が回答し、「聞いたことがある」と47%が回答している。自動車リサイクル制度の認知状況は、全体の71%

(1,207人)が認識している。←2018年度は、認知度80%

2:その1,207人の内、自動車購入時にリサイクル料金を支払うことを69%が認識し、リサイクル料金の用途を29%が認識している。

3:そのリサイクル料金の用途がフロン類、エアバッグ類、廃車くずの適正処理であることを知っている方は29%に留まった。←2018年度は、認知度36%

(2)自動車購入時における自動車ユーザーの関わり方

1:実際に自動車を購入した時、リサイクル料金を支払ったことを認識している方は、全体の61%(1,049人)であった。

2:そして、自動車を購入した時にリサイクル料金の説明を受けたことについて認識ある方は38%であった。←2018年度は、認知度33%

(3)中古車売却時における自動車ユーザーの関わり方

1:自動車を購入前に、保有していた自動車を売却(下取、譲渡を含む)した方772人の内、自身の自動車にリサイクル料金が支払われていたことについて認識ある方は48%(372人)であった。

2:その372人の内、自動車を売却した相手から「リサイクル料金相当額」を受け取ったことを認識している方は44%であり、自動車ユーザーが自ら行うリサイクル料金の支払や受取についての関心の低さが伺えた。←2018年度認知度42%

(4)廃車時における自動車ユーザーの関わり方

1:自動車を購入前に、保有していた自動車を廃車にした方195人の内、引取を依頼した相手から「使用済自動車引取証明書」の交付を受けたと回答した方は21%であった。

こちらについても自動車ユーザーの関心の低さが伺えた。←2018年度認知度28%

2:廃車を引渡した引取業者の事業区分(回答者195人)

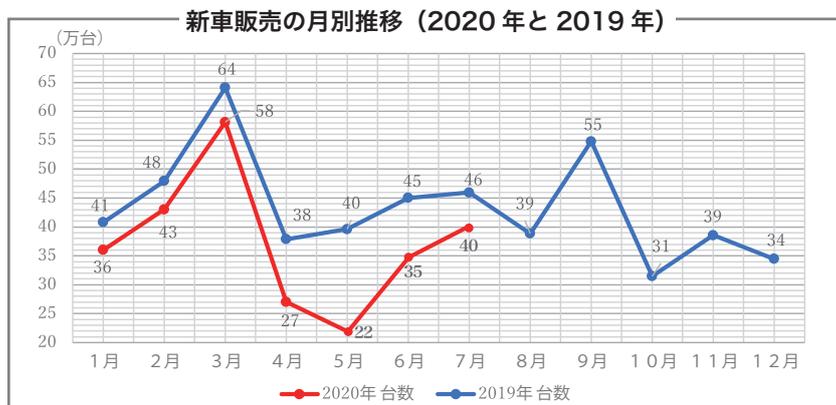
メーカー系列の自動車ディーラー:47%←2018年度51%

中古車販売店:20%←2018年度22%

整備工場:23%←2018年度17%

※詳細は、公益財団法人自動車リサイクル促進センターホームページ(<https://www.jarc.or.jp/data/other/survey/>)を参照下さい。

■2020年6月度新車販売台数 396,346台 前年同月比86.3%



過去の/new車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2020年 (7月まで)	2,604,122	81.1
2019年	5,195,134	98.5
2018年	5,271,987	100.7
2017年	5,234,095	105.3
2016年	4,970,197	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2020年6月度使用済み自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



引取件数
250,294 件 (前年同月比 84.7%)
フロン回収工程
227,554 件 (前年同月比 85.4%)
解体工程
261,277 件 (前年同月比 84.7%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

【速報】ヤフオクにおける中古エアバッグ類の出品禁止!

中古エアバッグ類のネットオークションにおける取扱いについての取組みを8月のニュースレター vol137号で紹介致しましたが、その後、ヤフー株式会社様より、「中古のエアバッグの取り扱いにつきましては、今般社内にて検討を行った結果、出品を禁止する方針といたしました。」との連絡をいただきましたこと報告します。ユーザーの皆様への告知は、近日中に行われるとの事です。

本問題は、自動車リサイクル法施行後からの懸案事項として、経済産業省・環境省などの協力のもとに取り組みられてきました。今般やっとうご理解いただくことに至りました。

これまでにご支援いただきました関係団体、この度ご協力いただきました自動車工業会様・自動車リサイクル促進センター様・自動車再資源化協力機構様に感謝申し上げますと共に、ヤフー株式会社様のご理解に感謝しネット市場の健全な発展に我々自動車リサイクル業界も寄与できるよう努めてまいります。



8月第3週(19日)の鉄スクラップ動向



8月19日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	24,500 ~ 25,000	値上がり
	南関東	24,500 ~ 25,000	値上がり
名古屋		22,500 ~ 24,000	値上がり
関西	大阪	23,000 ~ 24,000	値上がり
	姫路	24,000 ~ 25,000	値上がり

関東鉄源テnder H2 を平均価格 2万 7216 円で落札 前回比 3,642 円高

関東鉄源協同組合(理事長=山下雄平ヤマシタ社長)は19日、鉄スクラップ共同輸出入札(テnder)を実施し、H2を1トあたり平均27,216円で22,000トを落札した。前回比3,642円高と2カ月ぶりに値下がりし、今年最高値を付けた。落札平均が27,000円を上回るのは、昨年8月の27,714円以来、1年ぶりとなる。

関東鉄源テnderの落札価格は、集荷・品質の安定感やこれまでの実績などから高値落札となる場合が少なくない。19日午前時点の関東電炉のH2買値(24,500~25,000円中心)、H2浜値(25,000~25,500円中心、高値26,000円見当)に比べ、今回の落札価格もこれらを上回る結果となった。

今回のテnderには、商社15社(2社辞退)が合計25件を応札。全応札数量は166,000トだった。全応札の平均価格は26,487円、また最安値でも25,000円と、いずれの応札も域内の相場からそれ以上の価格帯にあり、域内の基調の強さを表す結果となった。入札後の記者会見で山下理事長は「関東地区のH2浜値は一部高値が26,000円どころ。これを考えると応札平均の26,487円は高値で、地場への影響は出るだろう」とコメントした。

【関東地区】 電炉各社に1,000円どころの値上げ一巡

関東電炉の間に8月18日、鉄スクラップ購入価格を1,000円どころ値上げする動きが広がり、関東相場は続伸した。市中スクラップの発生・荷動きが低迷する中、旧盆期間中に市中問屋筋の夏季休業などもあって電炉在庫が減少していたため、各社は引き合いを強めている。8月19日午前時点のH2炉前実勢価格は24,500~25,000円中心。H2浜値は25,000~25,500円中心、高値26,000円見当へ続伸した。

【東海地区】 8月18日の東鉄値上げに2社が即日追随へ

東海地区では、8月18日の東京製鉄の値上げに即日追随する形でメーカー2社が一律1,000円の値上げを実施した。海外市場に牽引される形で先高観があり、業者筋に出荷の様子見する動きも見られる。地場電炉の生産は鋼材需要の低下に加え集中炉休や夏場のピークカットの影響もあり、低調ながら内外格差が残る以上、目先も強含みの市況展開と見る向きが大勢だ。8月19日午前時点のH2炉前実勢価格は22,500~24,000円中心。

【関西地区】 市況は強含みも上伸力については疑問の声多め

大阪地区の鉄スクラップ市況は強含み。8月18日からの東京製鉄の値上げに3社が追随となり、その他筋の値上げ改定が続くと想定されるが、炉休要因による需要減が上伸の足枷となりそう。値上げに積極的な筋は少なく、「他地区ほどの値上がり展開には至りにくいのでは」(商社)など、上伸力については疑問の声が多い。8月19日午前時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が23,000~24,000円中心。姫路地区が24,000~25,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月19日午前時点のもの)

行事予定

— 9月の主な行事予定 —

- 9月8日 (火)
第6回 広報部会 ※リモート会議
- 9月15日 (火)
第2回 地域ブロック長会議 ※リモート会議
- 9月25日 (金)
第49回 自動車リサイクルWG 会議
- 9月30日 (水)
第50回 自動車リサイクルWG 会議

※急遽、日程の
変更・延期の場合がございます。

September



お知らせ

日本自動車リサイクル機構の新支部設立の紹介

2020年度の機構総会以降、新たに立ち上がった支部を紹介いたします。
2020年7月4日付け、三重県支部が設立されました。
支部長には、(有)岡野自動車商会 岡野 功社長が支部長に就任されました。

編集後記

遠出も自粛を促された窮屈なお盆休みが終わり今年もいよいよ後半戦です。ところで日本生産性本部の喜多川氏より EU の第 2 次サーキュラーエコノミー（環境型経済）について貴重な情報を頂戴しました。EU では今回のコロナ災禍においても経済復興に関しては徹底しているようです。

コロナ前と同じ場所に戻ってはいけないということで「EU グリーンリカバリーアライアンス」を設立し、デジタルとサーキュラーエコノミーの事業計画が含まれない大手企業の再建計画には、再建の補助金は支給しないといった徹底ぶりです。EU の環境大臣は、欧州会議でサーキュラーエコノミーはコロナウィルス危機からの経済回復の「原動力」となり、EU の最優先課題であり続ける。また、「サーキュラーエコノミーは雇用を守り、原料供給についてより柔軟で弾力的な社会を創る」と演説したそうです。経済が改革される様子が伝わってきます。日本におけるサーキュラーエコノミーは、いまだ普及の兆しが見えません。どんな形にせよ時代が刻々と変化していることは否めない事実。乗り遅れることだけは避けたいものです。

(広報部会 部会長 永田 則男)